地域を越えた歴史文化の視点

28.　旧赤穂上水道をたずねて

【ストーリー】

江戸時代になって播磨を支配した池田家の代官、垂水半左衛門は、陸地化が進んでいた千種川河口部に城と城下町を築くことになったとき、都市のインフラとして必要不可欠な上水の確保に悩まされた。当時の河口部の標高は約1.0mであり、井戸を掘削しても塩水が出てくるため、飲み水さえ得ることができなかったためである。

そこで垂水半左衛門は、約 7km北方にある西山に熊見川（現在の千種川）がぶつかって淵をつくっていることを利用し、そこにトンネル（隧道）を掘削することで上水の確保を行った。

その後、取水場所は高雄船渡取水井堰、木津取水井堰へと変遷したが、それは現在の赤穂城を築いた浅野長直が、戸島新田を開拓するための農業用水を確保するためであったとされる。この頃には、取水された水は、戸島枡で城下町への導水と農業用水路とに分岐し、まちと田を潤していた。

この水道は昭和 19（1944）年に近代的水道が整備されるまで使用された。江戸時代から近代にいたるまで使用可能であったのは、清流千種川の恩恵であろう。

現在も、導水路の多くは残されており、自然豊かな景観を保つとともに、農業用水として利用されている。

切山隧道

高雄船渡取水井堰跡

三ヶ村の樋跡

木津取水井堰跡

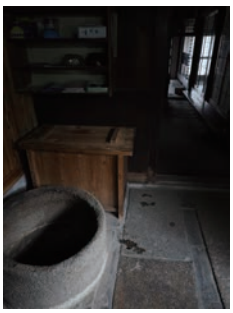
戸島枡

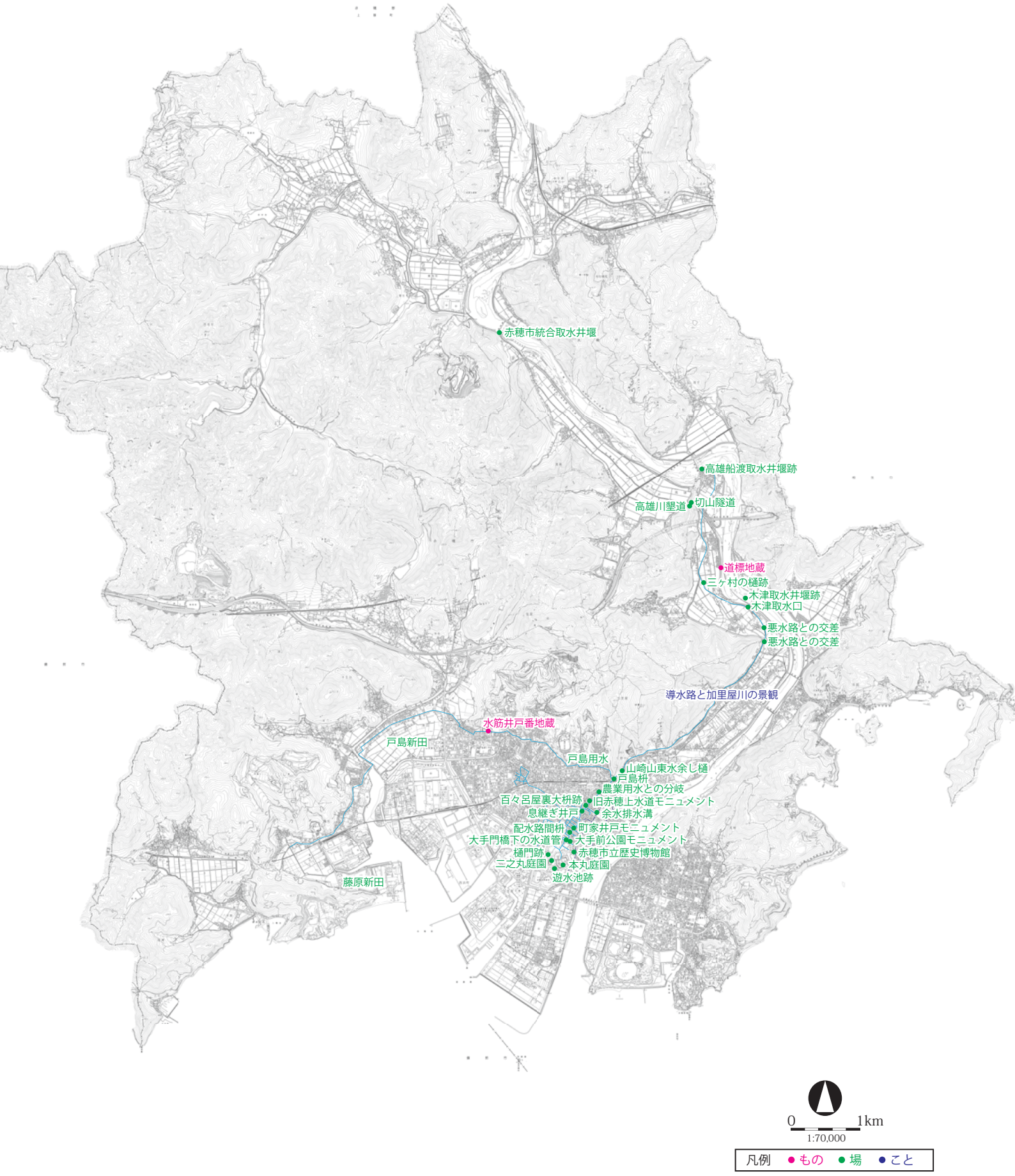
戸島用水

旧上水道保存区域

町屋井戸モニュメント

赤穂市立歴史博物館の展示


民家に残る汲出枡


赤穂市統合取水井堰
高雄船渡取水井堰跡
高雄川墾道
切山隧道
道標地蔵
三ヶ村の樋跡
木津取水井堰跡
木津取水口
悪水路との交差
悪水路との交差
導水路と加里屋川の景観
水筋井戸番地蔵
戸島新田
戸島用水
山崎山東水余し樋
戸島枡
農業用水との分岐
百々呂屋裏大枡跡
旧赤穂上水道モニュメント
息継ぎ井戸
余水排水溝
配水路間枡
町家井戸モニュメント
大手門橋下の水道管
大手前公園モニュメント
樋門跡
赤穂市立歴史博物館
二之丸庭園
本丸庭園
遊水池跡
藤原新田
0
1km
1:70,000
凡例　もの　場　こと